

令和8年度全国学力・学習状況調査結果について

〈函館の子どもの特徴〉

- 授業の中で、1人1台端末を活用して情報を収集したり、友達（生徒）と話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考えに気付いたりすることに、さらなる向上が見られる。
- いじめは許されないという意識が高い傾向にある。
- 算数や数学により一層の努力が必要である。
- 学校の授業以外の学習時間が短く、自分で学び方を考え、工夫することに課題がある。

平均正答数・平均正答率

〈小学校〉

	国語	算数
函館市	7.6問／13問 59%	8.0問／16問 50%
全国	7.9問／13問 60.9%	9.0問／16問 56.4%
全道	7.8問／13問 60%	8.6問／16問 54%

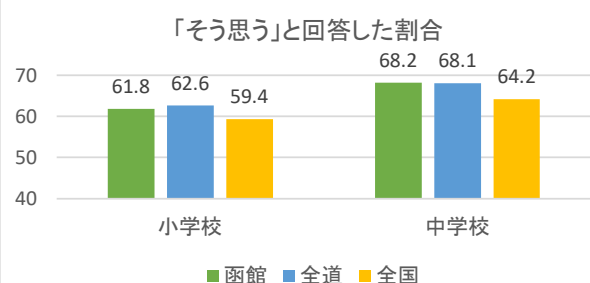
〈中学校〉

	国語	数学	英語
函館市	8.9問／15問 59%	8.1問／16問 51%	472
全国	9.6問／15問 63.9%	9.1問／16問 57.0%	499
全道	9.5問／15問 63%	8.8問／16問 55%	490

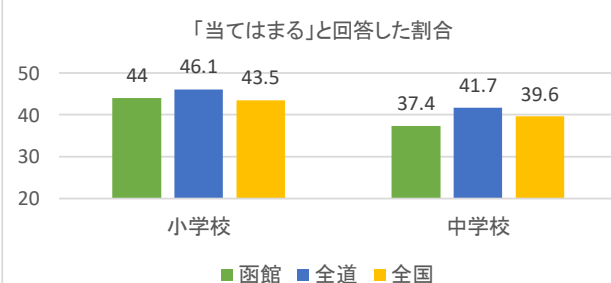
- ※ 函館市、全道の平均正答率については、小数点以下を四捨五入した整数値で結果を示しています。
上段：平均正答数、下段：平均正答率
- ※ 今後、本市の児童生徒の状況については、HPに追加して掲載してまいります。
- ※ 本市では、全国や全道の平均正答率と、本市の平均正答率に大きな差がなくなっていることから、令和3年度から「函館の子どもたちの特徴」を中心に公表しています。
- ※ 令和7年度から中学校理科の結果標記にIRTが導入され、令和8年度の中学校英語も同様の標記となったため、函館市における公表の仕方の変更となりました。
- ★ I R T…令和8年度全国学力・学習状況調査「中学校英語」結果返却のポイント
(文部科学省) https://www.mext.go.jp/content/20251217-mxt_chousa02-000046415-08.pdf

児童生徒質問調査の結果から見える成果

Q あなたは自分がインターネットを使って情報を収集する（検索する、調べるなど）ことができますか



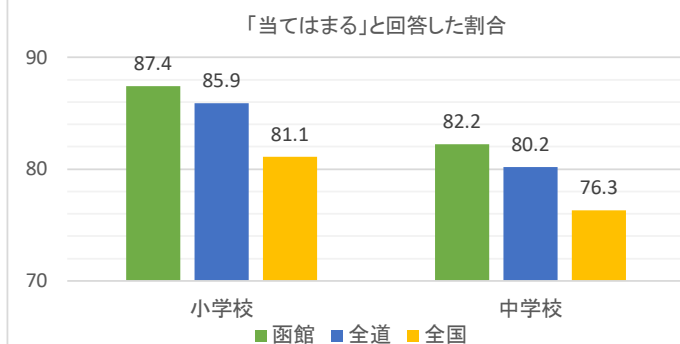
Q 学級の友達（生徒）との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができますか



「あなたは自分がインターネットを使って情報を収集することができますか」について、「そう思う」と回答した児童生徒の割合が、小学校で61.8ポイント（全国比+2.4ポイント）、中学校で68.2ポイント（全国比+4.0ポイント）となっていることや、「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができますか」について、「当てはまる」と回答した児童生徒の割合が、小学校では全国を上回り、中学校では昨年度から0.6ポイント増加しています。

学校質問調査においても、自分で調べる場面（ウェブブラウザによるインターネット検索等）で、1人1台端末などのICT機器をほぼ毎日使用していると回答している学校の割合は、全国を上回っています。

Q いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか



※ グラフについては特徴がわかるようにメモリを設定しています。

「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」について、「当てはまる」と回答した児童生徒の割合が、小学校で87.4ポイント、中学校で82.2ポイントと全国を上回っています。

学校質問調査において、「特別の教科道徳において、取り上げる題材を児童生徒自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしている」と回答している学校の割合は、全国を上回っています。

〈考察と今後に向けて〉

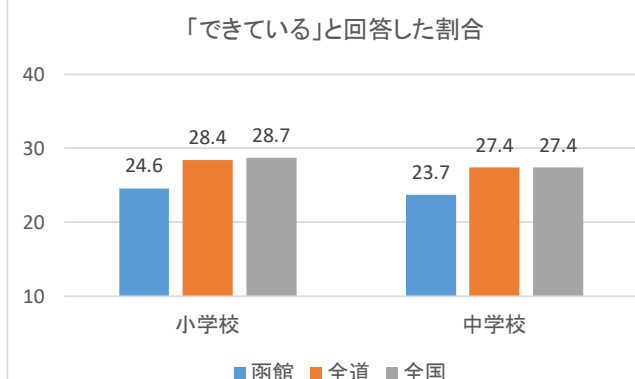
授業で1人1台端末を活用し、児童生徒の主体的に学ぶ姿勢が育まれていることや、児童生徒との話し合いを通じて、協働的な学びが行われている割合が増加し、着実な成果として挙げられます。

一方、各教科で、授業内容がよくわかると回答した児童生徒の割合が全国を下回っていることから、ICT機器のより効果的な活用や、主体的・対話的で深い学びの実装に向けた授業の見直し・改善を図る必要があると考えられます。今後は、その見直し・改善のもと、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実を図る授業改善が推進されるよう、各学校に働きかけてまいります。

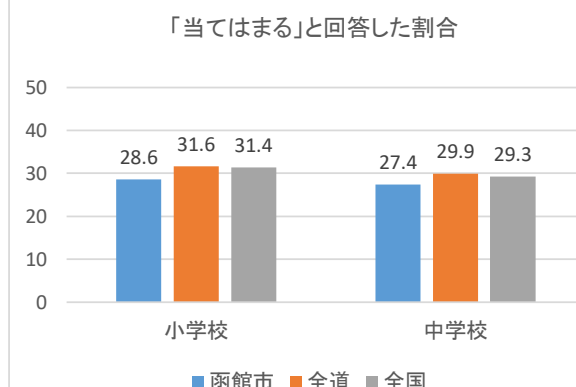
また、引き続き、「いじめ等の問題を考える集会」の取組等を通じて、いじめの未然防止、早期発見・早期対応に努めてまいります。

児童生徒質問調査の結果から見える課題

Q 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか



Q 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか



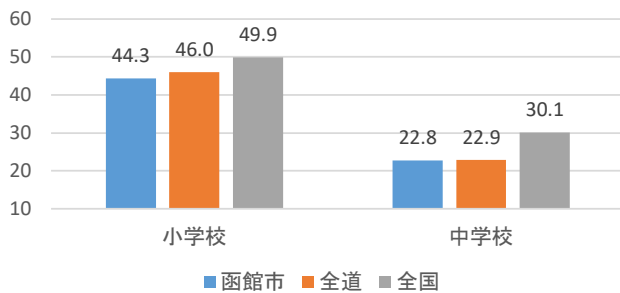
「分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができている」について、「できている」と回答した児童生徒の割合は、小学校で24.6ポイント、中学校で23.7ポイントとなっており、全国を下回っています。

学習した内容を見直し、次の学習につなげることができるかということについても、「当てはまる」と回答した児童生徒の割合は、小学校で28.6ポイント、中学校で27.4ポイントとなっており、全国を下回っています。

これらのことから、自ら課題を見つけ、課題を解決するために学習をどのように進めていくとよいかを考えたり、学習を振り返って次につなげたりすることに課題がみられます。

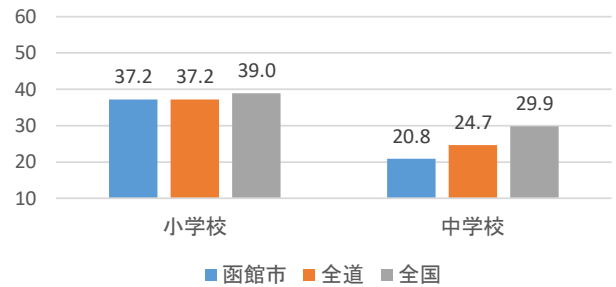
Q 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

小学生 1時間以上 中学生 2時間以上 と回答した割合



Q 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）

小学生 1時間以上 中学生 2時間以上 と回答した割合



普段（月曜日から金曜日）に学校の授業時間以外に勉強する時間として、小学校で「1時間以上」と回答した児童の割合が44.3ポイント、中学校で「2時間以上」と回答した生徒の割合が22.8ポイントとなっており、全国を下回っています。土曜日や日曜日における勉強時間についても、全国を下回っています。

〈考察と今後に向けて〉

家庭での学習時間において、全国と差が見られることから、放課後の過ごし方に課題があると考えられます。

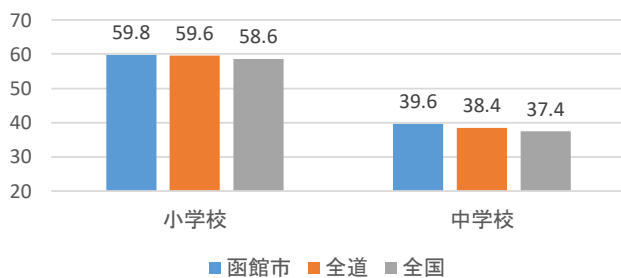
引き続き、1日の生活時間や放課後の過ごし方についての見直しを家庭に働きかけるとともに、望ましい学習習慣の定着を図ってまいります。

授業においても、児童生徒の学びを支援する伴走者としての教師の役割を踏まえつつ、児童生徒が自ら課題を見つけ、課題解決に向けた学習方法を考えたり、学びを振り返って次につなげたりする力を育むよう努めてまいります。

その他の特徴

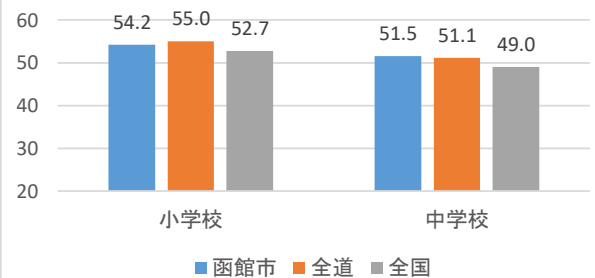
Q 将来の夢や目標をもっていますか

「当てはまる」と回答した割合



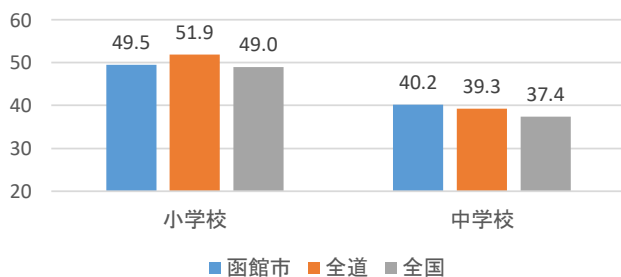
Q 授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切にして、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか

「当てはまる」と回答した割合



Q 先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか

「当てはまる」と回答した割合



Q 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか

「当てはまる」と回答した割合

